



里帰り娘、小売業、ICU勤務、多彩な New Face 2012

4月に大学病院から異動してきました鈴木美保です。2年前まで当院で初期研修をしていました。長岡や大学病院で研修後、昨年夏に当院に戻って出産し、生まれた子は小児科の先生方に診て頂いたのが、当院には職員としても患者としても大変お世話になっています。そんな病院でまた働けることになり、恩返しせねばと思いつつ、里帰り気分で楽しく働かせて頂いています。



鈴木 美保

私の妊娠生活は流産疑いで始まり、つわり中はかわいい赤ちゃんの匂いでも吐いていました。その後病院の階段で走って出血して以来、緊急時はガニ股早歩き、「先生産まないでね」と助産師さんに笑われながら分娩に立ち会うくらい元気でした。それでも産休に入ると体が動かず、したいことリストは希望で終わり、睡眠不足と食欲不振で出産の時は疲労困憊でした。でも出産は今でも鮮明に思い出せるほど素敵な思い出です。入院中は毎晩授乳室に通い、母乳外来には2回もかかりました。おかげ様で母児ともに元気です。9か月になった子供は白眼をむいて寝ていてもかわいいです。

妊娠出産、そして育児は大変ですが、幸せが沢山つまっていると実感しています。そんな一大事に毎日立ち会えることに感謝し、産婦人科医としても親としても初心者ですが、少しでも多くのおめでたに出会えるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。

はじめまして！今年の3月から当院に勤務しています産婦人科医の戸田紀夫です。

南魚沼市の出身なので、今年の新潟市の大雪にもあまり驚きませんでした。冬の強風には毎年戸惑ってしまいます。

東京の私立大学卒業後、県内で小売業に従事していましたが、思うところあり、退職後新潟大学医学部に再入学しました。入学後はよく働きよく遊び(！?)、当院近くのトラックターミナルで2年間働いていたこともあります。学生時代から産婦人科を志望しており、医師になってからは県立十日町病院、県立小出病院、新潟大学医学部総合病院で産婦人科研修を重ねてきました。

私のリラックスタイムは、コーヒーをポットしながら飲んでいるときです。店で焙煎・粉砕されたばかりのコーヒーを買ってきて、家でホットブラックを飲むと疲れが取れます。病院では甘いコーヒーが飲みたくなくなり、カフェラテばかり飲んでいます。最近では自宅でゆっくりできる時間が少なくなり病院にいることが多いので、糖分の過剰摂取で体重が右肩上がりに増加していることが一番の悩みです。



戸田 紀夫

自己紹介やアピールが大の苦手で、面白いことのひとつも書けない私ですが、4月からは毎週月曜の産科外来、木曜午後の不妊/再診外来を担当しています。どうぞ皆様よろしくお願いします！

みなさまはじめまして。4月からA4病棟に異動してきました、助産師の藍澤祥子です。新潟市出身ですが、埼玉県の大学に進学し、卒業後は埼玉医科大学総合医療センターで助産師として勤務していました。

その後、地元新潟に戻って参りました。関東の賑やかな雰囲気も楽しいですが、私はやはり新潟の海、空、山が大好きです。



藍澤 祥子

済生会病院に勤務してから約2年、A3病棟(集中治療室:ICU)にて重症患者さんの看護を学んできました。A3病棟では、高齢の患者さんが多く、病態に対する全身管理はもちろんのこと、日常生活における看護ケアも学ばせていただきました。この春から、久々の助産業務でやや緊張しております。しかし、生命誕生の瞬間はとても感動的です。改めて、助産師として働けることに喜びを感じております。

私は食べるのが大好きです。好きな食べ物はラーメン、スイーツ、豆乳です。特にラーメンに関してはよく父とラーメントークを繰り広げています。好みは、背脂濃しょうゆの極太ラーメン(いわゆる燕三条系)です。おいしいお店があればぜひ教えてください。

A4病棟は、明るくてとても雰囲気がいいところです。ICUで学んだ知識技術を活かしながら、助産師として成長できるように努力していきます。皆様どうぞよろしくお願い致します。

《編集部》▼今年も産婦人科病棟は3名の仲間を迎えました。島英里医師から引き継いで金曜日の産科外来を担当するのが、鈴木美穂医師、月曜日の産科外来の富永麻理恵医師の後任が戸田紀夫医師、そして助産師赤チームのホープとして加わった藍澤祥子助産師です。▼病棟では主治医をアルファベットで略記しており、例えば湯澤医師はY(ちなみに吉谷医師はYo)、藤田医師はFです。島→鈴木はともにS、富永→戸田はともにTと偶然一致しても便利です。▼鈴木医師は当院で臨床研修をしていた平成21年度に小紙第92号に登場しています。新生児一過性多呼吸の予防に関する研究発表の記事ですが、右の写真が当時のものです。産婦人科医としての仕事や、自らの出産を通して上のようにさらに洗練されているのが一目瞭然です。▼戸田医師は早稲田大学商学部→原信青果部→新大医学部という異色の経歴を持っています。先日のこと「産婦人科外来さんからお電話です」とさすがは商売経験者という片鱗を見せていました。こうした人生経験に裏打ちされた丁寧な説明が好評です。▼藍澤助産師は童顔ですが、すでに4年の臨床経験を持っています。県外のしかも大学病院での勤務、当院でもICUという最も密度の高い病棟での経験を活かしての助産を展開します。

